

9. 建築物

9-2. 家の建て方

9-2-1. 建築

家の屋根にイナウ inaw (御幣)を立てるということは虹別でも塘路でも見たことがない。

[島 直氏、島マチエ氏]

昔の家は草葺きであった。壁も草であった。

[島 直氏]

塘路の島太郎の家は、シラカバの仲間（オニカバと言っていた）の木の皮を家の内側の壁に張っていた。風を通さないので暖かい。また、生家にいた時は炉で生活したこともあったが、島の家にはストーブがあった。私が小学校に行く頃には薪ストーブが広まっていた。

[島 直氏]

9-3. 家屋の内部構造

9-3-1. 屋内とその配置

榛（はしばみ）孝太郎の家には、クマ送り専用の部屋があった。それは、茶の間の北西側（川上寄り）にあってふだんは物置きになっていた。北西の壁に小さな窓があった。炉がなかったのでクマ送りの際は茶の間との仕切を取り払った。

[伊藤隆雄氏]

大野さんの家の奥の部屋には小さなヌサ nusa (祭壇)があり、イナウ inaw (御幣)、首飾りなどが飾ってあった。部屋の隅には窓があり、クマ送りの時はそこから色々なものを出した。窓は、シュワン川の上流に向いていた。

[島マチエ氏]

私が育った塘路の家では、土間の上にポッケキナ pokkekina という草を刈って干した物を敷いて、その上にすだれが敷いてあった。

[島 直氏]

ストーブの口の前に炉鍋と言って、灰をかきだすため、鍋が埋めこんであった。

[島 直氏]

昔の家には、母屋に別に玄関（アサンド asanto）が継ぎ足してあった。

[島 直氏、島マチエ氏]

家の中のヌサ nusa (祭壇)に首飾りがかけてあった。奥の部屋（板敷き）の左側の壁のほうに、あまり大きくないがヌサが立ててあった。はっきりはわからないが、一尺位壁から離

れていたかもしれない。ヨシで編んだすだれみたいなものが立ててあって、首飾り(タマ tama) が掛かっている間々にイナウ inaw (御幣) が立っていた(と思うが、それもよく考えると確かでない)。すだれを立てておくための柱が首飾の間から見えていたかもしれない。一目見ただけだからよく思いだせない。ござの両側に皮をむいた棒が付いて柱になっていたようだ。クマの赤ちゃんは私が行った時にはヌサの向い側の壁に縛られていた。キナ kina (ござ) がしいてあった。その部屋にはシントコ sintoko (酒桶) 等は置いていなかったようだ。それは大きな別の部屋にしまっていたのかもしれない。

[島マチエ氏]

9-3-2. 炉とその周辺

焚火の上の枠(サン san と行ったかもしれない)の上に魚が干してあった。

[島マチエ氏]

火棚はアサン asan と行ったかもしれない。

[島 直氏]

灯りには、炉の火のほかラッチャクというものをを用いた。ラッチャクは、魚油を三平皿という皿にいれ、糸によった綿を灯芯としたものだ。3本の棒を組んでその上に皿を置いた。

[伊藤隆雄氏]

偉い人は横座(正面)に座る。

[島 直氏]

9-4. 屋外の構造

塘路にはオンネチセ onnecise という、家の中にヌサ nusa (祭壇)のある家が一軒あって、そのそばでクマ祭りをした。オンネ onne は大きい、チセ cise は家という意味だ。

[島 直氏]

塘路の島太郎のヌサ nusa (祭壇)は北向きであった。

[島 直氏]

塘路のカムイ崎のヌサ nusa (祭壇)は個人のものでなく、コタン kotan (村)全体のものだ。

[島 直氏]

大野さんの家には、家の中のヌサの他に外にもヌサ nusa (祭壇)があった。家から4、5メートルしか離れていない。ヌサの下がすぐ崖になっていて、下に川が流れている。家の外のヌサとクマ檻の間がかなり広い場所になっていて、そこでクマ送りをした。大野さんの家の外にあったヌサは私が子供の頃にはあったのを覚えているが大きくなった頃には片付けられて、既になくなっていた。だから、大野さんの家の外のヌサそのものは見ていない。60年も前のことだから。

[島マチエ氏]

孫じいさんのヌサ nusa (祭壇) は家のすぐ裏にあった。立木にわら縄を縛って囲いにして、子どもがはいらぬようにしてあった。ヌサ nusa (祭壇) に近付くなと言われた。

[島マチエ氏]

ヌサ nusa (祭壇) は家から離れた、子どもらが遊ばぬような処を作る。林の近くに作ることが多かった。北へ向けて作り、もしできれば川縁、沼縁に作るということは聞いている。個人のヌサ nusa (祭壇) はそうしたものだ。ウサギなどをとるとイナウ inaw (御幣) を作って骨と一緒にそこに納めた。ヌサ nusa は家から遠かった。

[島マチエ氏]

大野さんの家のヌサそのものは見ていない。しかしあった場所くらいは見当が付く。外のヌサは立木のあった付近にあった。

[島 直氏]

家の前の川に杭を打ち、板を渡して洗い場とした。

[鎌田タツ氏]

ヌサ nusa (祭壇) には、サン san (横木) が2本あって、その間にイナウ inaw を立てる。

[島 直氏]